

『山形県の█です』

令和2年5月29日 ペアレンツキャンプを卒業しました。

息子は、中3の春から高校卒業+2ヶ月、(いや、私が) 計4年程お世話になりました。

小6の小学校統廃合から完全に登校しうりが始まりました。給食少し前に行く。午前中顔出しだけする。校長室で1時間ほど過ごす。というような登校をしていました。担任は「お母さん、安心してください。顔出しだけでも出席扱いですよ。不登校ではないです」と 言いましたが、これのどこが登校なの? という想いでした。そして、息子にはハンディキャップがあります。知的障害です。障害があり、学校も行かない、これで大人になつたらどうなるのか? 心配と不安で、なだめたり、脅したりなんとか行ってもらひたかったです。でも、行くように話をしているうちに息子ののらりくらりの態度やだんまりを決め込んだ対応に私の気持ちがエスカレートして、鬼の形相で言葉の暴力を浴びせかけ続けた3年間(小6~中2)でした。スクールカウンセラー、県の相談、民間の子育て相談、心療内科、保健の先生へ相談、ありとあらゆる所へ行きました。一度しか行かなかつた所もあります。1ヶ月に一度話をしに行くを続けた所もあります。家の出来事、愚痴、話をして、少しスッキリし帰宅。でも、次の日、また、息子と同じことの繰り返しです。肝心の息子にどのように対応するのかは教えてもらえていなかつたのです。

毎日のようにネットで何か解決策は?と探していたところ『ペアレンツキャンプ』にたどり着きました。水野先生の『無理して学校へ行かなくていい、は本当か』を買い、読み「これだ!」と 思いました。障害があるので周りの子と比べ、上手に出来ないこともたくさんあります。義母が(息子からみると祖母) こうやれ。ああやれ。上手く出来ないとやってあげる。の手出し口出し。そして、私も義母に言われる前にやってあげないと言われてしまうと気になり、手出し口出し、過保護過干渉で過ごしてきたと思います。いつも、自分(私)のことと子供のこととがごちゃ混ぜになっていました。

中3の春はペアレンツキャンプの申し込み年齢のギリギリだったと思います。お金もかかることだし、障害があるのに健常の子と同じでうまくいくのか?と「どうしよう。どうしよう」と 考えました。でも、もうこれ以上自分でやっていくのは無理だ。誰かに助けてもらいたい。と初回無料の電話カウンセリングを受け「やろう。お願いしよう。自分を変えよう」と決めました。

うちは、家庭教育支援コースでと言われ、「えっ。私の対応だけで大丈夫なのか?」と思いました。週1回の「山形県の█です」から始まる電話相談がどんなにか待ち遠しかったことか。どんなにか励ましたことか。山下先生から叱咤激励されながら歩んだ4年間でした。朝のやりとりも「時間だけ伝えましょう」「声かけしそぎています」等々具体的に教えてもらいました。でも、今までのやりとりを変える、自分を変えるは、やっぱり、なかなか、難しいです。

結果を申し上げると学校に完全復学するは出来ませんでした。高校(支援学校高等部)も

行きたくないがあり、高1夏休み明けから休みがち、冬は完全に不登校に。高2の夏休み明けに、9時半から10時ころに登校、午前中で帰宅。調子が上向き給食を食べ午後も滞在出来るようになる。と また、長期の休みに入り、休み明け9時半から登校、午前で帰宅。と、振り出しに戻るというような登校でした。卒業間近は給食を食べて午後も滞在し卒業しよう！頑張ろう！としていた矢先、新型コロナウイルス感染症対策のため臨時休校に。いつにもましての長い長い休みをへて社会人となることとなりました。

障害のある人の就労は段階があり、息子は就労支援B型で、社会との繋がりを第一に考え無理せず仕事を続けるということに重きをおく作業所に行くことになりました。

4月1日、長い休み明け大丈夫かと心配と不安もありました。この時も山下先生に励まされながらの3月でした。たまたま、学校に登校するのと同じ時間で朝の支度をし、出発できる時間で9時半ころ到着の出勤です。9時少し過ぎると「行くよ」と 息子より声かけしてもらい出勤しています。

学校に復学するは出来ませんでしたが、今、仕事に行くは毎日出来ています。これも、4年間山下先生よりご指導いただいた賜物と思っています。ペアレンツキャンプの先生は、気は優しくて力持ちみたい、本当に心強い先生だと思います。私は本当に助けていただきました。

今後は息子が仕事に行くことを応援し、ステップアップしていくことがあれば、勇気づけることが出来るよう、これまで学んだことを忘れずに過ごしていきたいと思っています。また、他の人の関わり方にも今まで学んだことはいかせるのではないかと思っています。

7年間という長い月日をかけ、、泣きました。怒りました。笑いました。喜びました。後半4年間はペアレンツキャンプという心強い味方を得て頑張れたと思います。本当にありがとうございました！

令和2年6月5日

